



全国曹洞宗青年会の
活動紹介(七十七)

広報誌『SOUSEI』連載企画

「世界とともに歩む」について

国際委員長 高倉 秀哲

全曹青の広報誌『SOUSEI』では、昨年より新連載企画「世界とともに歩む」がスタートしました。視点を世界へ広げれば、異なる風土や言語の中でも、お釈迦さまの教えを心の拠り所とし、真摯に仏道に励む人々が数多く存在します。本連載は、広報委員会・国際委員会が協働し、世界中の様ざまな地域で、様ざまな機縁により仏道を歩まれている方がたへ取材を行い、「生の声」を通じて活動のきっかけやその一端を皆さまへご紹介しております。

これまでには曹洞宗の僧侶お二

人に取材を行いました。アメリカで活動される青年僧侶の西村全機



アイルランド、ダブリン禅センターでの
摂心中の経行(西村師提供)

師は、学生時代の国際経験を活かし、大本山總持寺での安居の後にアメリカへと渡られました。アメリカでの活動の様子や、そこで感じられた日本との違いだけでなく、日本といかに同じであったかという師が感じられた驚きをお話しいただきました。ポーランド出身で、日本で活躍されるシュブナル法純師からは、日本とは仏教を取り巻く環境が大きく異なる中で出家の経緯や当時の様子をお話しいただきました。また、様ざまな言語に触れ精通してこられた師の経歴から、人へ想いを伝える際



宗務庁における英語坐禅会
「Zen Class」(シュブナル師提供)

に大切なことや、海外の禅センターのようなサングの形成を意識された現在の日本での活動やお話を伺うことができました。

国際委員会ではかねてより韓国曹溪宗との交流会「Korea-Japan Zen Club」や、世界各地で活躍されている僧侶よりオンラインでお話を伺う研修会「世界の寺院か

ら」などを継続的に開催しております。そうした企画運営に携わる中で、一人ひとりのお人柄を知ることを通じてこそ、現地の様子が実感をもって伝わってくるということ強く感じております。同時に同じ仏の道を歩むお一人として向き合うことで、たとえ地域や立場は異なっても、それぞれの実践とともに歩む私たち全員に関わりのあることとして捉えることができるのではないかと、そうした考えが本連載企画の出発点になっていきます。

インタビュ어의様子をリアルタイムでお届けすることはできませんが、その分、取材段階でじっくりと対話を深めていく余地が大きいように思っています。また取材時に

は複数の委員が同席し、国際交流経験の多寡を含め広範な視線を取り入れることも心掛けております。

本連載を通じ、取材者である私たち自身の日々の実践を省みながら、単に異なる地域の様子をお伝えするだけでなく、取材対象者の仏の教えとの向き合い方を掘り下げられるよう努め、文字通り「世界とともに歩む」繋がりを感じていただく内容を積み重ねていく予定です。皆さまがそれぞれに心の琴線に触れる部分を見出していただけけるよう企画の充実に努めてまいりますので、ぜひご一読ください。



●執筆プロフィール
高倉秀哲
茨城県曹洞宗青年会 所属